

令和5年9月 牧之原市議会定例会 行政報告

令和5年市議会9月定例会の開会にあたり、各施策の取組状況につきまして報告いたします。

最初に「海水浴場の運営状況」についてであります。

今年度は、4年ぶりに新型コロナウイルスに関する制限が無い中での開設となり、安心安全で開放感のある空間の提供に努めてまいりました。

また、海水浴シーズンの7月中旬から8月に、RIDE ON MAKINOHARA 誘客キャンペーン第1弾として、市内に宿泊する山梨・長野県民を対象に市内店舗で利用できる商品券の助成を実施いたしました。

静波海水浴場、さがらサンビーチともに、7月14日の海開きから7月末までは天候に恵まれ、山梨・長野両県からの来場者増加などの後押しもありましたが、8月に入り台風の影響で遊泳禁止や遊泳注意の日が続いたことで、来場者数が伸び悩み、前年比約19.7%増の15万2千人の来場者数となりました。

コロナ禍前に比べると約77.2%であり、引き続き、アフターコロナのニーズに合った運営の工夫などを通じて、コロナ禍前以上の賑わい創出に努めてまいります。

なお、9月からは、誘客キャンペーン第2弾として、全都道府県民を対象に、第1弾を含めて10,000泊の大型支援を行い、年間を通じた誘客促進を図ってまいります。

また、9月2日には、さがらサンビーチにおいて、水中スターマインをメインとした1,173発の花火や地元団体によるイベント開催を予定しており、9月5日には、静波海岸周辺で観光客に対するWelcome花火の打上げを予定しております。

その他にも、静波海水浴場ではビーチサッカー、キッズサーフィンスクールが、さがらサンビーチでは砂ASOビーチイベントがそれぞれ開催され、9月9日には鹿島海岸において、聴覚障がい者による第1回牧之原デフカップサーフィン大会の開催が予定されております。

静波、相良、地頭方の沿岸部活性化を進めるとともに、様々なマリンスポーツイベントの開催などを通じて、15kmの海岸線などの地域資源を活かした交流人口の確保を進めてまいります。

また、2020東京五輪のレガシーとして、サーフィンやクライミングなどのアクションスポーツを子どもたちが体験できる「まきのはらジュニアズアクションスポーツクラブ」を3月に設立し、各種体験活動に取り組んでおります。

7月には、ハワイ州ホノルル市長と、ラジオ番組を通じて電話会談を行い、当クラブの活動などを通じて、両市の交流を更に深めていく事を確認いたしました。

今後は、同クラブによるムーア・アロハミニキャンプへの参加などを通じて、子ど

もたちの思い出に残る体験機会の創出に努めるとともに、当クラブの活動がサーフィンなどを日常的に体験できる暮らしの魅力に繋がるよう取組を進めてまいります。

次に「保育の安心安全」についてであります。

令和4年9月5日に学校法人榛原学園が運営する「川崎幼稚園」において、送迎バス内に取り残された園児が亡くなる大変痛ましい事故から1年が経過します。

市が設置する細江保育園と、市所有の施設を民間運営する静波保育園の今後の運営に関しましては、榛原学園と協議をしておりますが、細江保育園につきましては、公立保育所民間移管審査委員会において、指定管理期間終了後は牧之原市社会福祉事業団を運営者とするのが妥当との答申を、7月に受けております。

また、この審議と並行して、5月には、細江保育園に勤務する職員に対して、社会福祉事業団の雇用条件を説明するとともに、現在、同園職員に対して社会福祉事業団に移る意向調査の実施を榛原学園に申し入れております。

再発防止に関しましては、通園等に利用されるバスへの非常ボタンを市単独で早期に設置し、その後、国が制度化した安全管理システムについても設置いたしました。

また、市内幼稚園・保育園を対象とした安全管理に関する研修会を開催し、知識の習得と職員間の情報交換の場を設けるとともに、各施設に対して、研修内容を職員間で意見交換、情報共有することで、研修の成果を安心安全な環境構築に反映するよう指導しております。

なお、現在、教育・保育施設等事故検証委員会において、再発防止に向けた検証を進めており、今後とりまとめられる報告書に基づき、事故を起こした法人だけでなく、市内の全幼稚園・保育園に対策の徹底などを指導してまいります。

子どもたちが安心して安全に過ごすことができる環境を確保し、命を預かる、育む、本来の幼児教育・保育環境の信頼回復に努めてまいります。

次に、主要な施策の取組状況のうち「富士山型ネットワークの充実」についてであります。

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区の開発につきましては、牧之原市IC北側土地区画整理組合が、調整池や施行地区外の排水路に関する工事などを進めており、今後、農地法や都市計画法に基づく手続きが完了した区域から造成工事に着手する計画としております。

市といたしましても、地域の住民や団体、企業などが積極的かつ主体的に参画するまちづくりに向け、関係者との意見交換や、有識者による講演会の開催、エリアマネジメント導入などに取り組んでまいります。

富士山静岡空港につきましては、FDA出雲便と熊本便は運休となりますが、国内

線利用客がコロナ禍前に戻りつつあり、国際線につきましても、3月にはソウル便の就航が再開し、9月24日には上海便の就航が再開される見通しであるなど、明るい話題も増えてまいりましたので、空港周辺の地域開発などを含めて地域一丸となって利用促進を図ってまいります。

坂部地区への道の駅設置につきましては、6月20日に開催した指定管理者選定委員会において、TTCグループを指定管理候補者に選定いたしました。

現在、造成や建築に関する実施設計などを進めており、今後、用地取得や造成、建築工事に着手し、令和7年4月の開業を目指してまいります。

なお、農産物直売所や飲食コーナー、トイレなどの実施設計に当たっては、指定管理候補者の考えを反映した魅力ある施設となるよう協議を進めてまいります。

榛原図書館につきましては、榛原文化センター2階の旧榛原図書館部分を会議室へ改修する工事が完了し、現在、令和6年4月のリニューアルオープンを目指して、パーゴラ設置や内装工事を進めております。

図書交流館いこっこのように、滞在しやすい空間づくりを行うとともに、図書館協議会における協議を通じて、図書をツールに情報や人が集まり、様々な活動を支える機能を施設整備と合わせて検討してまいります。

各拠点を中心に周辺エリアの魅力を高め、富士山型ネットワークの充実に繋げてまいります。

次に「ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」についてであります。

オーガニックまきのはら推進事業につきましては、令和4年度に耕作放棄茶園の茶樹を伐採、伐根してバイオ炭の試験的な製造を実施し、現在、製造したバイオ炭を利用した土壌改良試験、Jクレジットへのプロジェクト登録を進めております。

また、荒廃農地の収益化に向けては、早生樹普及促進協議会を設立し、生育や伐採方法、成木や間伐材の利活用について研究を進めるとともに、茶園からレモンへの転換を希望する農家を中心にレモン研究部会を立ち上げ、栽培や出荷方法の確立と、販売先の確保の研究などを通じて、早生樹、レモンの収益化を目指してまいります。

なお、8月23日には、農業や環境分野の有識者と行政などで構成するオーガニックまきのはら推進本部委員会を発足し、これらの効果検証や持続的発展について検討を進めてまいります。

スタートアップの呼び込みや支援につきましては、地域資源を活かしたビジネスプランを募集する「まきのはらビジネスチャレンジコンテスト2023」を、昨年引き続き実施しております。

現在、国内外から昨年度を超える129件の応募があり、今後、事業内容を審査し、

グランプリなどを決定してまいります。

牧之原地区には、民間のインキュベーション施設「まきのはらインキュベーションセンター」が8月に開業しましたので、応募があったスタートアップの市内定着に係る受け皿や伴走支援の機能を持つ拠点として、当事業における重要な役割を担っていただき、公民連携で地域全体のオープンイノベーションを推進してまいります。

近年の電気、ガス料金等の高騰により、経営が圧迫されている中小企業者を支援するため、牧之原市商工会と連携し、脱炭素に向けた普及啓発セミナーを開催いたします。

9月12日には公益財団法人静岡県産業振興財団による国、県などの補助事業の情報提供を、9月13日には省エネルギーや再生可能エネルギーを活用した事業所運営の先導モデルとなる株式会社ナカジマテックの視察を実施いたします。

様々な支援策や具体的な実施モデルの理解を深め、各事業者の脱炭素に向けたアクションを促進してまいります。

また、家庭におけるゼロカーボンにつきましては、住宅への設備導入や改修などに関する支援制度を充実し、促進に努めております。

太陽光発電システムや蓄電池などの導入、ZEH^{ゼッチ}と呼ばれる省エネルギー住宅の建築に対する助成につきましては、エネルギー費用の高騰などもあり、申請数が増加し、7月末で当初予算分の予算枠がいっぱいとなりました。

また、7月からは、既存の一戸建て住宅の省エネ改修に対する助成を開始し、既存住宅における二酸化炭素の排出削減についても進めております。

次に「日本一女性にやさしいまちの推進」についてであります。

女性が求める働き方の実現に向けて、ビジネス創出と就業環境の改善の両面から取組を進めてまいります。

趣味や特技を活かしたスモールビジネスを支援する月3万円ビジネスにつきましては、今年度から実践に向けた本格プログラムを導入しております。

受講者募集に対して定員を超える応募があったため、定員数を増やし、現在、16名の受講者が、目指す未来の姿をビジネスモデルにするよう取り組んでおります。

また、本格的な起業を行う女性に向けては、まきのはらビジネスサポートデスクに女性の起業に関する専門相談員を配置し、相談に対応しております。

就業環境の改善に関しましては、市内の大手企業などとの検討会を開催し、具体的な取組状況や課題に関する意見交換から開始しております。

休暇や時短勤務、相談などに関する制度は、各社充実している中、職場の理解や男性の育児参加意識の向上などが共通した課題であるため、厚生労働省の認定などを受けている先進的な取組を共有し、環境改善に向けた取組を具体化してまいります。

男女共同参画につきましては、アンケート調査の実施や、企業、地域、商工業、健康福祉などの関係者が参加する男女共同参画推進会議の開催を通じて、令和5年度中の計画策定を進めております。

今後、啓発セミナーの開催などを通じて、職場や家庭において個性を大切にし、誰もが活躍できる男女共同参画社会の実現を目指してまいります。

また、女性の健康づくりに連携して取り組むため、7月6日に大塚製薬株式会社と「健康づくりの推進等に関する包括連携協定」を締結いたしました。

本協定に基づき、令和6年3月には、女性の健康づくりに関する講演会を開催するなど、市民の健康づくりの推進に取り組むとともに、今後、災害時における連携に関しても検討を進めてまいります。

次に「DXの推進」についてであります。

基幹システムの標準化につきましては、現在、現行システムと標準仕様の異なる箇所について、システムごとに確認を行っており、年度内に文字の標準化などについても作業を進めてまいります。

また、対話型AI「チャットGPT」を様々な業務において活用していくため、現在、職員による実証試験を行っております。

AIの特性や、セキュリティ上の注意事項などに対する理解を深めながら、業務効率の改善に向けて利活用を検討してまいります。

次に「次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」についてであります。

学校再編につきましては、新しい学校づくり検討会及び市内の検討組織において協議を重ね、学校施設整備基本構想・基本計画をまとめる段階に入っております。

また、市民、学校、行政が、キャリア教育や地域と共に子どもたちを育てる仕組みを学ぶ機会として、本年度2回の新しい学校づくり勉強会を開催いたします。

8月30日に実施した第1回勉強会では、静岡大学教育学部の武井敦史^{たけいあつし}教授から、当市のキャリア教育である起郷家^{きごうか}教育の内容や意義などをお話いただきました。

第2回は、NPO法人スクール・アドバイス・ネットワークの生重幸恵^{いくしげゆきえ}代表を講師に迎え、9月23日に開催する予定です。

市民の期待に応えられる学校づくりに向けて、基本構想・基本計画の策定を進めてまいります。

次に「その他施策の推進状況」についてであります。

勝間田地区の消防団活動の核となる第5分団勝間田消防館の建設につきましては、8月30日に議長や関係者の皆さんに御出席をいただき、地鎮祭を執り行いました。

当施設は、二つの会議室と消防車両2台が格納できるもので、令和6年2月末の完成を目指し、工事を実施してまいります。

将棋に係る交流につきましては、8月19日に杏林堂杯子ども将棋大会を開催し、市内外から参加した子どもたちにより、白熱した対局が繰り広げられました。

伊藤園お〜いお茶杯第64期王位戦の本市での第6局開催は実現しませんでした。藤井王位による王位戦振り返りのトークショーなどを9月6日に代替イベントとして実施いたします。

なお、市内飲食業者などから地元食材を活かした自慢のメニューを募集する「勝負メシ」プロジェクトに関しましては、ランチ18品、スイーツ15品の応募があり、8月17日には、市民による投票結果の発表を行いました。

今後、市内イベントへの出店やパンフレットの配布などを通じて、広く市内外にPRし、誘客に繋げてまいります。

最後になりますが、国内最高峰のオートバイレース鈴鹿8時間耐久ロードレースに、菅ヶ谷のバイクショップ「ゲズンハイト」レーシングチームが初出場し、完走されました。

また、2023ミス・ユニバースジャパンファイナルで、本市出身の宮崎莉緒みやざきり おさんがグランプリを獲得し、ミス・ユニバース日本代表に選ばれました。

スポーツの分野では、市内在住の加藤あすみさんがパラクライミングの世界選手権大会に出場されたほか、剣道では、本市出身の川合芳奈かわいかなさんが全日本女子学生剣道選手権大会の個人戦で、清水彩しみずあやさんが全国高校定時制通信制大会剣道大会の個人戦で、それぞれ優勝されました。

三人の他にも本市出身の若者が陸上、アーチェリー競技において、全国規模の大会への出場を決めるなど、全国の強豪相手に活躍されております。

厳しい社会経済情勢の中ではありますが、市民や若者の活躍を、本市の活力として、諸課題に対してスピード感をもって対応していくとともに、第3次総合計画に基づく魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

市議会の皆さま、市民の皆さまに、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。行政報告とさせていただきます。

令和5年9月1日

牧之原市長 杉本 基久雄